THE Y'S MEN'S CLUB OF AIZU
会津ワイズメンズクラブ
CHARTERED ON FEB.1993

《 例会 》　毎月第２水曜日 19:00~21:00　若松栄町教会（☎ 0242-27-3944）

2016~2017 年度主題

International President :Joan Wilson　(カナダ)
"Our Future Begins Today"「私たちの未来は、今日より始まる」
Asia Area President :Tung Ming Hsian (台湾)
"Respect Y's Movement"「ワイズ運動を尊重しよう」
東日本区理事　利根川恵子（川越）　「明日に向かって、今日動こう」
北東部部長　長岡正彦（もりおか）　「明日のために、いま土台を築こう」
会津クラブ会長　青山孝男　「明日を楽しく、共に歩もう！」

＜№257 会津通信＞
2016 年 9 月 14 日発行

会　長	青山孝男
副会長	髙橋眞美
書　記	髙橋真人
会　計	髙橋真人

◇9 月の聖句 ◇

人間の道は自分の目に清く見えるが　主はその精神を調べられる。

箴言１６章２節

9 月例会プログラム

司会；高橋　力ﾒﾝ

1．開 会 点 鐘　青山孝男会長
2．ワイズソング　一　同
3．会長あいさつ　青山孝男会長
4．連 絡・報 告　青山孝男会長
5．聖 句 朗 読　髙橋　力ﾒﾝ
6．食前感謝　髙橋　力ﾒﾝ
7．会　食
8．懇　談　「会津のﾕｰｽを考える」
9．Happy Birthday! Happy Anniversary!

-------あかべこ -------

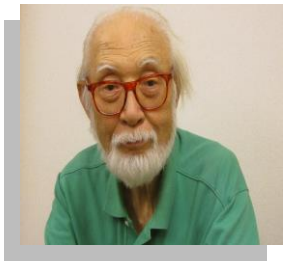
10．閉 会 点 鐘　青山孝男会長

＜8 月例会出席状況＞

在　籍　者	５名	ゲスト０名
出　席　者	４名	ﾒﾈｯﾄ０名

＊8 月例会出席率　80%

あ　か　べ　こ	4,000 円
16-17 年度合計	9,000 円



ぼくの最近の課題です

高橋　力

「最上のわざ」
この世の最上のわざは何？
　楽しい心で年をとり、働きたいけれども休み、 しゃべりたいけれども黙り、失望しそうな時に希望し、従順に、平静に、己の十字架をになう。、

若者が元気一杯で神の道を歩むのを見ても妬まず、
人のために働くよりも、謙虚に人の世話になり、
もはや人のために役立たずとも、親切で柔和であること。
老の重荷は神さまの贈り物。
古びた心にこれで最後の磨きをかける。
まことのふるさとへ行くために-----。
己をこの世につなぐ鎖を少しずつはずしていくのは、
真に大変な仕事。
こうして何も出来なくなれば、それを謙虚に承諾するのだ。
神は最後に一番よい仕事を残してくださる。それは祈りだ。
手ではなにも出来ない。けれども最後まで合掌は出来る。
愛するすべての人の上に、神の恵みを求めるために。

　すべてを成し終えたら、臨終の床に神の声を聞くだろう。
「来よわが友よ、我汝を見捨てじ」と。

『人生の秋に』ヘルマン・ホイヴェルス著より

（次回は、髙橋真人ワイズ）

☆　強い義務感を持とう　義務はすべての権利に伴う。　☆

会津クラブ例会より

会津クラブメンバーの今年度の抱負は！

【高橋京子】

健康に気を付けて、骨を折ったので早く治したい

【高橋真人】

昨年より車での移動が多くなったので、違反しないように（最近も違反はしていませんが・・）気を付けていきたいな、とおもいます。

【高橋　力】

体の具合が徐々に薄紙をはがすようにと思っているとまたぶり返す。こういうことは中々すっきりしない状況だが、色んな仕事を皆さんにお願いしながら段々とやるべきことを話しながら、ゆっくりと元気になりかつ良くなること。動けるところでは動いていくがゆっくりやります。

【高橋真美】

抱負はたくさんありますが、一つは昨年高田教会の仕事を力さんと一緒に行ってクレーラハウスという宣教師館の周りの地域の活動を考えて動き出しました。今年はできれば定期的にそこで、活動できればと考えています。２か月に一回の割合で進めていければと話し合ってきました。色んな希望を抱いているところです。私自身としてはできれば来春に向かって『放射能を浴びた X 年後２』という映画がありますが、評判も良くそれを早く会津で上映したいと思っています。

会津だより

「少年の主張会津若松市大会」最優秀賞に輝いた中学生の作品を紹介します。

『故郷の誇り』　　河東中３年　武内　優貴さん

忘れないでほしい。思い出してほしい。それが私の願いです。　中学３年生になった私は、７月のある週末５年ぶりに家に帰りました。１５歳にならないと帰れない決まりがあるからです。福島県双葉郡大熊町、そこが私の故郷です。あの日、東日本大震災と原発事故によって、私達は自分の家に帰るのに許可と年齢制限を強いられるようになりました。

避難生活を始めて、今の河東に来るまで、都路村や船引町を転々としました。途中、両親と離れ離れになることもありました。会津での生活は、雪のない浜通りから来た私にはとても新鮮だったし、たくさんの仲間や友達に恵まれて、楽しく過ごすことができました。でも、たまに昔のことが思い出されると、心だけが制限を超えて故郷に飛んでいき、私は15 歳になるのが待ち遠しくなりました。15 歳は一時帰宅が許される年齢です。一時帰宅という言葉、皆さんは覚えていますか？　父の車の中で大熊町に向かう途中、私達は双葉町にある祖母の家に寄りました。古い家が持つ、あの何とも言えない独特の雰囲気が私は好きでした。伸び放題の草を踏み分けて進んでいくと、大好きだった双葉のばあちゃんの家は、荒れ果てていました。窓ガラスが割れ、中はめちゃくちゃ、もしかすると泥棒が入ったのかしれません。あまりの変わりように私はショックで、何も言えませんでした。　大熊に向かう車の中で、ふと、二つ上の幼馴染が先に一時帰宅した時のことを思い出しました。彼女は変わり果てた自分の家の姿を受け止めきれず、車から降りることができなかったそうです。そこで私は開き直ることにしました。何を見ても気にしないでいこう、変わっているのは仕方ないと考えよう、と心に決めたのです。

（以降は次号に）

会津の先人たちをシリーズで紹介します

南洋開発にかけた一生

松江　春次（まつえ　はるじ）－２

日本初の角砂糖

卒業後、大日本製糖に入社し、アメリカのルイジアナ大学に留学、砂糖科を卒業しています。さらに、技術習得のためヨーロッパにまで足を伸ばし、国際的視野を持ちました。31 歳で帰国し、日本初の角砂糖の製造に成功しています。

南洋興発株式会社

製糖会社を転々とし、台湾での製糖業で大きく成功を収めました。しかし、自身が描く南洋開発の夢のため退社、サイパン島に渡りました。島では、国の入植事業に失敗した１千人の日本人が飢えていました。島の調査で製糖事業の成功を確信した春次は、飢餓を救うため南洋興発株式会社を設立、開拓に着手します。自ら陣頭で指揮にたち、資金難や病害虫などの苦難に立ち向かいました。やがて製糖事業に成功し、5 万人もの入植者を迎えました。（次号へ）

◆　今後の予定　◆

◇10 月例会　10 月 12 日午後 7 時より

◇ユニークダンス例会
10 月 1 日　会場：鶴ケ城体育館